

大公研第 2-50 号  
平成 18 年 5 月 26 日

依頼者 住所 東京都中央区八丁堀4丁目1番4号  
氏名 株式会社ドゥリーム・ドゥ 三宅和之

様  
大阪府立公衆衛生研究所長

### 試験成績書

試料名	スーパードリームF-1
試験目的	ネコカリシウイルス不活化

平成 18 年 5 月 10 日 当所に提出された上記試料について試験した結果は次の通りである。

#### <試験方法>

使用ウイルス：ATCCネコカリシウイルスF9株(FCV)

使用細胞：ネコ腎臓(CRFK)細胞(大日本製薬)

依頼検体：

スーパードリームF-1 500mL液、対照として58.8%醸造用アルコール液、精製水を用いた。

不活化試験：

50 $\mu$ Lあたりおよそ $10^6$ TCID<sub>50</sub>に調整したFCV 0.5mLに被検検体4.5mLを加え、室温にて10、30秒、1、2、5、10分毎に0.1mLを取り、イーグルMEM液4.9mLで50倍希釈し、試薬の作用を止める。これを感染価測定の前液とした。対照(0秒)として精製水を用いた。

感染価の測定はマイクロ法により行った。CRFK細胞を増殖させたマイクロプレートの培地(10%ウシ胎児血清加イーグルMEM)を捨て、 $10^{-6}$ まで10倍階段希釈したウイルス反応液50 $\mu$ Lずつ各希釈あてプレートの4ウェルに入れる。37 $^{\circ}$ Cで1時間吸着させた後、維持培地(2%ウシ胎児血清加イーグルMEM)を加え、37 $^{\circ}$ Cに静置し、5日後に細胞変性の出現を指標としてウイルス感染価を求めた。

#### <試験結果>

スーパードリームF-1は $5.6 \times 10^4$  TCID<sub>50</sub>のFCVを10秒間で100%不活化した。

58.8%アルコールがFCVを99.9%不活化するには2分間を必要とした。(詳細は別紙1参照)